

倉庫火災想定、迅速に消火

多治見市の従業員ら避難訓練
物流センター

多治見市大針町のバロー物流センターで、倉庫火災を想定した避難訓練が同市消防本部、北消防署と合同で行われ、従業員らが防災意識を高めた。



建物に向けて放水する北消防署の署員＝多治見市大針町、バロー物流センター

昨年2月に埼玉県で発生したアスクルの物流倉庫火災などを教訓に、大規模倉庫火災時に必要な知識や技術に身に付けようと実施。同センターでの合同訓練は初めてで、バロー本部や倉庫で働く従業員ら約120人、同署員11人が参加した。倉庫内に保管されたカセットボンベが爆発し、火災が発生した想定で訓練を開始。非常ベルが鳴り響き、従業員らが一斉に屋外の駐車場に避難した後、通報を受けた署員がタンク車とポンプ車で現場に到着し、建物に向けて放水した。

訓練後の講評で同署の大堀泰宏署長は「今後も訓練を続けて防火知識と意識を高めてもらいたい」と話した。

(山本貴史)